

平成31年度  
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人静岡県文化財団	
施 設 名	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	27,403	(千円)
公 演 事 業	21,293	(千円)
人 材 養 成 事 業	478	(千円)
普 及 啓 発 事 業	5,632	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 平成31年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	NHK 交響楽団名曲コンサート	6月27日	曲目：ベートーヴェン／歌劇「フィデリオ」序曲作品72 他	目標値	850
		中ホール・大地		実績値	843
2	エイフマン・バレエ「ロダン～魂を捧げた幻想」	7月15日	出演：ボリス・エイフマン（芸術監督・振付）、エイフマン・バレエ	目標値	650
		中ホール・大地		実績値	711
3	世界のこども劇場 2019	8月1日～3日	演目：はる・なつ・あき・ふゆ（チリ）、キャンバス（ベルギー）他	目標値	2,150
		中ホール・大地他		実績値	1,839
4	グランシップ音楽の広場 2019	8月4日	曲目：E.エルガー／行進曲「威風堂々」第1番 他	目標値	7,100
		大ホール・海		実績値	6,929
5	グランシップ ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル 2019	8月11日	出演：スーパー・ブラス・オーケストラ、TAKE HEART BEAT 他	目標値	1,550
		大ホール・海		実績値	1,690
6	バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル：オラトリオ「メサイア」	12月20日	出演：バッハ・コレギウム・ジャパン（合唱・管弦楽）、鈴木雅明（指揮）他	目標値	750
		中ホール・大地		実績値	616
7	【グランシップ伝統芸能シリーズ】グランシップ静岡能	1月25日	演目：能「巻絹」、狂言「萩大名」、能「龍虎」 出演：宝生和英、金剛龍謹 他	目標値	740
		中ホール・大地		実績値	601
8	春の音楽祭 2020	2月23日	曲目：J.レノン／Imagine、式町水晶／孤独の戦士～Flame of Heart～他	目標値	1,650
		大ホール・海		実績値	836
9	小曾根真 featuring No Name Horses	3月6日	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演を中止。	目標値	750
		中ホール・大地		実績値	中止
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	



(3) 平成31年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	合唱ワークショップ～歌のメリーゴーランド～	5月3日	出演：静岡児童合唱団（合唱）、戸崎文葉（指揮） 他	目標値	1,500
		中ホール・大地		実績値	1,008
2	【グランシップ伝統芸能シリーズ】グランシップ静岡能 能楽入門公演	9月7日	演目：能「一人翁」、仕舞「羽衣」、半能「高砂」 他	目標値	950
		中ホール・大地		実績値	708
3	グランシップ冬のおくりものコンサート	11月24日	出演：静岡フィルハーモニー管弦楽団（演奏）、福田一雄（指揮）他	目標値	1,580
		大ホール・海		実績値	1,470
4	中学生のためのオーケストラ	1月29日～30日	出演：静岡交響楽団（管弦楽）、本名徹次（指揮）	目標値	3,760
		中ホール・大地		実績値	3,119
5	グランシップ登録アーティストコンサート事業	4月～2月	出演：グランシップ登録アーティスト	目標値	1,950
		3階共通ロビー他		実績値	3,117
6	伝統芸能普及プログラム	5月～2月	内容：「触れてみよう能楽師」他 講師：武田祥照 他	目標値	560
		県内小中学校他		実績値	711
7	グランシップ子どもアート体験！学校プログラム	5月～1月	内容：玉川奈々福の浪曲教室 他 講師：玉川奈々福 他	目標値	1,170
		県内小学校他		実績値	1,406
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>平成 31 年度企画事業は、「音楽文化等の普及・振興」「伝統芸能の継承」「文芸・美術等の振興」「子ども・子育て世代の支援」「新たなグランシップファン獲得のための取り組み」からなる戦略目標、「上質で多彩な鑑賞事業」「誰もが参加できる県民参加型事業」「関心・理解・親しみを深める教育普及事業」「公演からワークショップまで様々なアウトリーチ事業」からなる基本方針を軸として企画した。</p> <p>交付要望の時点では普及啓発事業として「ハイスクールジャズ公開レッスン」を企画していたが、平成 31 年度企画事業全体のバランスを考慮した結果、内容の再検討が必要と判断したため、事業の実施を見送った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、公演事業の「8 小曾根真 featuring No Name Horses」や、普及啓発事業の「5 グランシップ登録アーティストコンサート事業」のなかで令和 2 年 3 月に実施を予定していた「親子で楽しむロビーコンサート」等を中止とした。また、令和 2 年 2 月 23 日に開催した公演事業の「8 春の音楽祭 2020」は体調不良の方には来場をご遠慮いただき、後日チケット代を返金した。</p> <p>上記以外の事業についてはほぼ当初の予定通りに事業を実施することができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>① 若い世代を対象とした制度</p> <p>県立の複合文化施設として、県民、特に若い世が多様で質の高い公演を安価で鑑賞できるよう、様々な事業を行っている。まず、平成 23 年度よりこども・学生のチケット代を 1,000 円とする料金設定を実施しており、平成 31 年度は「NHK 交響楽団名曲コンサート」や「人形浄瑠璃 文楽」等、16 公演でこども・学生の料金を 1,000 円に設定した。</p> <p>次に、中学生や高校生を対象とした「中高生鑑賞プラン」を実施している。これは、学校単位や部活動単位で鑑賞する場合のチケット代を 800 円にする制度である。加えて、中高生鑑賞プランを利用する際、学校から会場までにかかる交通費を当財団が全額支援する制度があり、平成 31 年度は全 8 公演で延べ 37 校、3,790 人の生徒の交通費を支援した。</p> <p>さらに、普及啓発事業「4 中学生のためのオーケストラ」では、県内の中学生をグランシップに招待して一流のオーケストラによる公演を鑑賞する機会を提供しており、平成 31 年度は平成 30 年度より多くの中学生に鑑賞していただくことができた。（平成 30 年度：2,331 人、平成 31 年度：2,994 人）</p> <p>② 静岡県公立ホール連携支援研修</p> <p>県内唯一の県立複合文化施設の使命として、「県内の公立文化施設の機能向上」や、「市町の公立文化施設のネットワークづくり」を掲げ、平成 22 年度より県内文化施設職員を対象としたアートマネジメントセミナーを実施し、平成 30 年度より後継事業として人材養成事業の「1 静岡県公立ホール連携支援研修」を実施している。平成 31 年度は研修生・聴講生あわせて 25 人が参加し、施設間のネットワークの構築や企画制作能力の向上に寄与することができた。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### ① 公演事業

公演事業では3つの目標を掲げていた。

一つ目は「公演事業の作品演目の制作にあたっては、常に質の高い芸術性を追求し、もって芸術家・芸術団体と鑑賞する県民との間に創造的な空間を構築する。」であったが、宝生流と金剛流の異流競演となった「7 グランシップ静岡能」、県内の中高生を中心とした若い世代が何度も合唱及びダンスの練習を重ね、オーケストラとともにグランシップの大ホール・海で一つのステージを作り上げた「8 春の音楽祭 2020」等の芸術性が高いだけでなく、グランシップでしか見ることが出来ない公演を実施することができた。

二つ目は来場者アンケートによる公演満足度であったが、「1 NHK 交響楽団名曲コンサート」で満足度100%を達成した他、その他の公演も満足度も高く平均満足度は98.1%となり目標の96%を上回ることができた。

三つ目は支出に対して収入の占める割合(努力収入率)を45.3%以上と設定していた。経費を精査したことにより全体的に支出額を削減することができたものの、「6 バッハ・コレギウム・ジャパン」で入場者が伸び悩んだことや、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3月6日に開催を予定していた「9 小曽根真 featuring No Name Horses」を中止しチケット代の払い戻しを実施したことにより収入が減少した。その結果、平均収入率は32.4%となり目標を達成することはできなかった。

#### ② 人材養成事業

「研修事業に参加する県内公立文化施設職員が、連携事業のあり方の研究やトライアル事業を実践形式で実施し、もって各県内公立文化施設職員の制作能力の向上を図り、研修の成果を地域の文化振興に活かす。」を目標に設定した。当財団では県内の公立文化施設職員を対象に「愛される公立ホールづくり方」をテーマとして「1 静岡県公立ホール連携支援研修」を実施した。研修では、公立文化施設を取り巻く環境変化と課題を理解・共有し、公立文化施設・各館の使命を考え、それを実現するための制作手法について講義やグループディスカッションを通じて考える場を提供するとともに、研修生がトライアル公演を共同で企画・運営した。当研修を通して県内の文化施設職員が企画制作に関する知識、ノウハウを身につけることができた。当研修は開始して2年目の事業であるため、研修の成果が地域の文化振興に活かされるのはこれからになるが、今後も静岡県の文化活動の拠点として、県全体の文化活動の発展に向けて努力していく。

#### ③ 普及啓発事業

公演を伴う事業とアウトリーチ事業に分けて目標を設定した。公演を伴う事業では「子ども・学生の入場者数」を3,300人以上に設定したが、「1 合唱ワークショップ」等入場料無料の公演だと子ども・学生の入場者数が把握できなかったこともあり、目標を達成することはできなかった。しかし、乳幼児とその親を対象として年間を通じて開催した「親子で楽しめるロビーコンサート」では延べ687人が来場し、年間を通して子どもや学生が楽しめる公演を実施することができた。

アウトリーチ事業では、「教員、児童・生徒の満足度」を95%以上に設定した。「6 伝統芸能普及プログラム」、「7 グランシップ子どもアート体験!学校プログラム」ともに96.2%となり、目標を達成することができた。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

① 事業期間

すべての事業について、概ね当初の計画通りに進めることができた。

② 事業費

公演事業「5 グランシップ ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル 2019」について、舞台スタッフ費が想定よりも上回ってしまったこともあり、支出額が要望時の約 1.5 倍になった。

また、公演事業「9 小曾根真 featuring No Name Horses」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため公演を中止したため、実際に支出した額は要望時よりも大幅に少なかった。

その他の事業については、概ね当初の計画通りに執行することができた。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### ① 公演事業

##### ア NHK 交響楽団名曲コンサート

県民に一流のオーケストラ公演を安価で鑑賞してもらえる機会を提供できた。さらに、曲目についても N 響側からの提案だけでなく、静岡で開催するということを考えて当財団側からも曲を提案することにより、静岡でしか聴くことができないプログラムにすることができた。

##### イ エイフマン・バレエ「ロダン～魂を捧げた幻想」

静岡県立美術館に「ロダン館」があり、県民にとって親しみのあるロダンに関する作品を提供することができた。公演前日には主役ダンサーによるトークイベントを実施し、本公演をより楽しむことができる機会を提供することができた。

##### ウ 世界のこども劇場 2019

上質な世界のパフォーマンスをおとな 1,500 円、こども 500 円という安価な価格で提供することができた。また、当館だけでなく、掛川市、菊川市、裾野市でも「出前公演」という形で公演を実施した。

##### エ グランシップ 音楽の広場 2019

静岡県ゆかりの音楽家やアマチュア音楽家の活動の幅を広げる機会を提供した。

##### オ バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル：オラトリオ「メサイア」

「メサイア」は 2 時間の「抜粋版」も演奏されることが多いが、本公演では全曲披露した。約 3 時間の公演となったが、ストーリー性のある内容や表現豊かで質の高い演奏により、満足度の高い公演を開催することができた。

#### ② 人材養成事業

##### ア 静岡県公立ホール連携支援研修

県内公立文化施設の実務者レベルでのネットワークを構築することができた。加えて、研修生が主体となって公演を企画、制作、上演することにより、研修生の企画制作能力が向上した。

#### ③ 普及啓発事業

##### ア グランシップ登録アーティストコンサート事業

5 月、8 月を除く毎月 1 回「親子で楽しむロビーコンサート」と題して乳幼児とその親を対象とした無料のミニコンサートを実施。幼い頃から芸術を身近に感じる機会を提供することができた。

##### イ グランシップ子どもアート体験！学校プログラム

当館に来館することが困難な地域に赴き、芸術文化を届けるアウトリーチ活動を展開することにより、子どもの時から本物の芸術・文化に触れる機会を提供し、豊かな情操や心を育むことができた。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

### ① 伝統芸能事業

当館は開館以来伝統芸能の普及活動に力を入れており、年間を通して伝統芸能に触れてもらえるよう様々な事業を実施している。静岡県では鑑賞する機会が少ない「歌舞伎」「能楽」「文楽」の3公演を「グランシップ伝統芸能シリーズ」と銘打って年間を通して開催している。

さらに、平成30年度からは“日本を知ろう！”を全体テーマとして、伝統芸能シリーズを展開している。平成31年度は能楽にスポットをあて、概要をまとめた広報ツールを作成した。

能楽関連の事業として、令和元年9月7日に実施した「グランシップ静岡能 能楽入門公演」では20回目の開催となったことを受け、第一部では「わくわく能楽教室」の歴代お稽古生の代表による仕舞の発表と山階弥右衛門先生によるインタビューを行いながら、あわせて山階先生が20周年を振り返ることにより、これまでの当館の伝統芸能の取り組みを紹介することができた。また、関連事業として小学生を対象としたワークショップを実施した。お稽古の他、能楽師へのインタビューを実施する等、能楽・能楽師に対する関心を持つ機会を提供することができた。令和2年1月25日に実施した「グランシップ静岡能」では、宝生流と金剛流の異流競演という新しい試みで能、狂言の公演を実施。異流競演は来場者からも好評を博した。

加えて、幼い頃から伝統芸能に親しんでもらえる機会を提供するため、太夫、三味線、人形遣いが小学校に出向き、役割の解説や人形遣いの体験、ミニ実演を行う「人形浄瑠璃文楽出前講座」や、一部の小学6年の国語の授業で使われている「狂言」について、能楽師（狂言方）が小学校で教科書を使った授業・実演・体験を行う「狂言ワークショップ」等も実施した。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

#### ① 人材育成

当財団の企画事業に携わる職員について、基本的にはディレクターを中心にジャンル別のチームを組み、経験を積む形でのOJTによる研修を行っている。必要に応じてOff-JTを取り入れ、「静岡県公立ホール連携支援研修事業」や全国公立文化施設協議会主催の研修等に参加させている。加えて、平成30年度からは新たに当財団が企画・制作・運営を行う県民参加型の音楽公演「春の音楽祭」を開催している。これらの事業を通して、当財団が目指すところ及び具体的な事業の進め方を学ぶとともに他館職員、大学教官とのネットワークづくりに繋げることができている。

#### ② 友の会事業

友の会個人会員について、平成27年度から個人会員の会費を無料化した。その結果、個人会員数が増加し、平成30年度末に会員数が1万人を突破した。チケット購入者の内、友の会会員の割合が増加しており、入場料収入の確保につながっている。

#### ③ 県内文化施設との連携

県内の高校生が在学中に指定の公演を3公演鑑賞した際に家族で鑑賞できるペアチケットをプレゼントする「高校生アートラリー」制度を導入している。平成31年度は県内の文化施設24館が参加し、高校生全員に公演紹介冊子を配布している。この取り組みにより、高校生料金を1,000円に設定する公演が県内に増加し、鑑賞しやすい環境づくりに努めており、将来文化芸術の鑑賞者を育成することにもつながっている。